



学校だより3月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和3年2月26日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

「門出の日」を迎えて～卒業式の記憶～

校長 岡崎 陽子

三寒四温を繰り返しながら、ゆっくり着実に春が近づいていると感じる頃となりました。春は「別れの春」とも「旅立ちの春」とも言われます。本校では、3月24日（水）に令和2年度の卒業式を行います。1年前の卒業式を思い起こすと、急遽決定した休校措置の中、卒業生のみ参加という形で式を行いました。今年度は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、卒業生とその保護者1名の参加をもって挙行することになりました。規模を縮小した形ではありますが、職員一同心を込めて卒業生の「門出の日」をお祝いしたいと思います。

ところで、人生にはいくつかの節目があります。「卒業」も一つの節目です。皆様はご自分の小学校の時の卒業式を覚えていらっしゃいますか？私は断片的ですが、覚えていることが3つあります。

1つは、6年3組で出席番号が1番最後だったため、卒業生の中で1番最後に卒業証書をいただいたということ。もう1つは、卒業式の当日に着た私の服装は、洋裁の得意だった母が手作りしてくれたモスグリーン色の色のベストボレロとスカートだったこと。そして最後は、卒業式が終わってから、ずっと泣いていたことです。卒業と同時に父の転勤に合わせて、生まれ育った横浜市から千葉県への引っ越しが決まっていたので、友達との別れが悲しくて仕方がなかったのです。

小学生だった私にとって「卒業」は「別れ」の経験でしかなかったのですが、その後、新しい土地に住んで、たくさんの新たな出会いを経験した今、「卒業」という節目は「新たな出会い」も含んでいることを実感しています。

この春、日限山小学校を卒業する78人の子どもたちにとっても「卒業」という節目は「別れ」だけでなく「新たな出会い」を含んだ、希望に満ちた「門出の日」であることを強く伝えたいと思います。

例年、在校生代表として卒業式に参加していた5年生ですが、“3密”の回避の観点から、今年度も参加を見合わせることにいたしました。5年生にとって卒業式は、6年生から学校のリーダーとしてのバトンを受け継ぐことを自覚する機会となっていました。その機会は逸してしまいましたが、事前に練習の様子を見学したり、6年生の卒業をお祝いする集会等を運営したりして、最高学年になるという気持ちを高めています。

卒業式当日の朝は、在校生全員で「卒業生を送る会」を開いて卒業生の「門出の日」を祝福します。この会を通して、在校生は、委員会・クラブ活動や異学年交流の場であるたてわり活動でリーダーとして活躍した6年生への感謝の気持ちを表します。と、同時に次の学年に1つ進級するという自覚を促す機会ともなります。学校の教育活動の中で「卒業」は、6年生にとってはもちろん、1年生から5年生にとっても節目となる大切な行事です。令和2年度の教育活動を締めくくる大切な「卒業」という節目が、子どもたち一人ひとりのこれまでの成長を喜び、これからの成長を願うものとなるよう、皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。